2021年 全国 私立大学
入試科目・配点一覧の見方

基本の記号は３つ！

■……必須の教科・科目

①②……同じ教科の中で、この科目数を選択

□……教科をまたいで選択（選択すべき教科・科目数は1 2…で表示）

2021年に新設・改組・名称変更を予定している私立大学・学部・学科等には☆印を付しました。2021年入試科目・配点は、現在の発表内容が概要または予定の段階という大学もあるため、出願に際しては、各大学の「募集要項」で必ず確認してください。

一般（独自）選抜欄

この一覧では、「理科」について、基礎を付した科目（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎）を「基礎科目」、基礎を付していない科目（物理、化学、生物、地学）を「発展科目」と表記した。

国語の「※除外」の欄は、次の分野が出題範囲から除外されることを示す。古文／漢文／古漢（＝古文・漢文）／古典。

■は、**必須の教科・科目**を表す。

教科としては必須で、①**はその教科内の1科目選択**を、②**は2科目選択**を示している。「2科目を受験している場合は高得点の科目を利用」といった場合も①となる。

教科数は選択の仕方により異なる場合、例えば3教科または2教科の場合は「3（2）」のように表示。小論文・実技・面接は教科数には含めないが、総合問題は含めている。

国語				地歴		公民		数学				理科				外国語			小論文	実技	面接	教科数	備考＆理科（発展科目）の項目	脚注
国語総合	現代文B	現代文A	古典A	世界史B	日本史B	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A・Bの項目	物理	化学	生物	地学	科目内容	コミュニケーション英語Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅰ	英語表現Ⅱ	英語会話	他の外国語・リスニング					物理＝①様々な運動 ②波 ③電気と磁気 ④原子 化学＝①物質の状態と平衡 ②物質の変化と平衡 ③無機物質の性質と利用 ④有機化合物の性質と利用 ⑤高分子化合物の性質と利用 生物＝①生命現象と物質 ②生殖と発生 ③生物の環境応答 ④生態と環境 ⑤生物の進化と系統	
■	■		古漢※除外	①①①															■■■■■				独仏中				3	増国語	
100				100															100								300		
■				①①①															■■■■■								3		
100				100															100								300		
								■■■■■					場図整	列ベ	2②②			基礎発展	■■■■						■		3		1
								300							300				300							–	900		
□			古	□□□				□						列ベ					□								2		2
2	（200）		漢	2（200）				2（200）											2（200）								400		
■	■	■		□□□		□							場図整	列ベ					■■■■■				＊独仏中				3		3
100				1（100）		1（100）		1（100）											100								300		

地歴・公民は別教科として扱っている。そのため、「地歴・公民からは1科目選択」の場合は、該当科目欄に教科をまたがる選択科目のマーク（□）を付した。

□□□□□は、**複数教科にまたがって選択する科目**を示し、選択すべき教科・科目数は 1 2…で示した。□□□□□は、該当する複数科目を1科目扱いとすることを示し、▥の印は1科目扱いとする科目群に含まれていないことを表す。複数教科からの選択が2種類ある場合、□□□□□と区別するために、◯◯◯◯を使用。

数学A・Bの項目については、大学指定の項目を略記した。略記の内訳は次の通りで、備考・脚注欄でも同様に表記した。

【数学A】
場＝場合の数と確率
図＝図形の性質
整＝整数の性質

【数学B】
列＝数列
ベ＝ベクトル
統＝確率分布と統計的な推測

なお、数学A・数学Bの項目が未発表（未定）の場合は原則として空欄とした。

外国語の「リスニング・他の外国語」欄では、音声テストの有無と、英語以外の外国語が選択できるかどうかを示した。
「＊」……リスニング・ディクテーション・聞き取り・書き取り・聴解力テストなど、何らかの音声テストが課されることを示す。
「独」「仏」等……英語以外の外国語が選択できることを示し、「英・独・仏・中から1科目」「英・独・仏から1科目」の場合は、該当欄にそれぞれ「英」を省略した形で「独仏中」「独仏」などと記載した。

外国語の「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」は、それぞれ「コミュ英語Ⅰ」「コミュ英語Ⅱ」「コミュ英語Ⅲ」と略記した。

備考・脚注欄の**増・減・変**のマークは、2020年入試との比較で、**増**は入試科目数が増えるもの、**減**は入試科目数が減るもの、**変**はその他の変更を示している。
その他、備考・脚注欄では科目選択の制限など、入試に関する補足・注意事項が記載されているので必ず目を通してほしい。

英語の代わりに、**英語の外部検定**（英検、TEAPなど）を利用する大学・学部・学科等では、備考欄（脚注欄）にその旨を**外検**として記載した（共通テストも同じ）。

教科の出題科目・範囲が明記されていない場合は、科目記号欄に「国語」「数学」「英語」などと記載した。

理科の科目内容＆配点の見方

理科は、科目名とともに「科目内容」の欄に「基礎科目」「発展科目」の出題範囲を示した。「基礎」とあるのは当該科目の出題範囲が「基礎科目」のみ、「基礎・発展」とあるのは当該科目の出題範囲が「基礎科目」と「発展科目」であることを示す。
発展科目の履修項目は、以下の通り。項目指定や除外項目がある場合は、項目名を①～⑤で略記した。ただし、基礎科目や地学の発展科目については、項目指定を略さず明記した。

物　理	化　学	生　物	地　学
①様々な運動	①物質の状態と平衡	①生命現象と物質	①地球の概観
②波	②物質の変化と平衡	②生殖と発生	②地球の活動と歴史
③電気と磁気	③無機物質の性質と利用	③生物の環境応答	③地球の大気と海洋
④原子	④有機化合物の性質と利用	④生態と環境	④宇宙の構造
	⑤高分子化合物の性質と利用	⑤生物の進化と系統	

国語	地歴	公民	数学			理科		外国語		小論文	実技	面接	教科数 / 満点	備考＆理科（発展科目）の項目	脚注
国語総合 / 現代表現 / 現代文A / 古典A / 古典B ※除外	世界史B / 日本史B / 地理B	現代社会 / 倫理 / 政治・経済	数学Ⅰ / 数学Ⅱ / 数学Ⅲ / 数学A / 数学B	A・Bの項目：場図整 / 列べ統		物理 / 化学 / 生物 / 地学	科目内容：基礎 / 発展	コミュ英語Ⅰ / コミュ英語Ⅱ / コミュ英語Ⅲ / 英語表現Ⅰ / 英語表現Ⅱ / 英語会話	他の外国語：リスニング・独仏中					物理＝①様々な運動 ②波 ③電気と磁気 ④原子 化学＝①物質の状態と平衡 ②物質の変化と平衡 ③無機物質の性質と利用 ④有機化合物の性質と利用 ⑤高分子化合物の性質と利用 生物＝①生命現象と物質 ②生殖と発生 ③生物の環境応答 ④生態と環境 ⑤生物の進化と系統	
■ ■ 古漢 100	①①① 100		■■■■■ 200	場図整	列べ	①① 200	基礎 発展	■■■■■ 100	独仏中				3 300	国語	
			■■■■■ 300	場図整	列べ	②②② 300	基礎 発展	■■■■ 300				■段階	2 400	物理…④除外	
古漢 2 (200)	□□□ 2 (200)		2 (200)		列べ			2 (200)					3 900		1
■ ■ ■ 100	□□□ 1 (100)	□ 1 (100)	1 (100)	場図整	列べ			■■■■■ 100	＊独仏中				2 400		2
													3 300		3

理科は、科目名と科目内容（基礎、発展）を示した。「基礎・発展」とあるのは当該科目の出題範囲が「基礎科目」と「発展科目」であることを示す。
上記の2例は、上は「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」から1科目選択、下は「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から2科目選択を示す。なお、大学が出題項目や除外項目などを指定している場合は備考・脚注欄に明記した。

配点は各教科の入試科目の下に示した。選択が複数教科にまたがる場合は(　)内に示し、複数教科を合計しての配点は＜　＞内に示した。配点が未公表（未定）の場合は空欄とした（共通テストも同じ）。

面接が点数ではなく、**段階で評価**されることを示す。

共通テスト利用入試欄

科目記号の意味、配点の表記については一般（独自）選抜と同じ。

国語の「※除外」の欄は、次の分野が出題範囲から除外されることを示す。
古文／漢文／古漢（＝古文・漢文）。
「古漢」が除外される場合は、「近代以降の文章」が出題範囲となる。

外国語の科目指定欄は次のように表示した。
「空欄」＝「英独仏中韓」の５科目すべてから選択できる。
「英」＝英語が必須。「英仏」＝英語・フランス語からの選択。
「英独仏」＝英語・ドイツ語・フランス語からの選択。
「除韓」＝韓国語を除く、など。

共通テストの科目・配点

国語	地歴	公民	数学	理科				外国語		科目指定	個別教科数	別率個比	個別試験の有無	重要！理科の基礎科目欄の見方＆備考	脚注
国語 ※除外	世界史A 日本史A 地理A 日本史B 世界史B 地理B	現代社会 倫理 政治・経済 倫理・政治・経済	数学I・A 数学II・B 数学I・II・A・B 簿記・会計 情報関係基礎	基礎科目 全は必須 / 発展科目 物理 化学 生物 地学	同一名称組合せ	選択パターン A 基礎2科目 / B 発展1科目 / C 基礎2+発展1 / D 発展2科目		外国語 リスニング		教科数 / 科目数	満点 / 総計	合計点			
□1 古漢 (100)			□ 1 (100)	■ 化生 100		♣		■ ＊ 100[20]		3-4 300	0 0	300	×		
□1 (100)	①①①①①①①①①①① 100		①①①① 100	① 全 ①①①① 100		♣♣		□1 (100) 英		4-45 400	0 0	400	×		
□1 古漢 (100)			□ □ 1 (100)	② 全 ②②②② 200	可	♣♣		□1 (100) 仏英独		2-34 300	0 0	300	×		
			■ ■ 200	①物化生①①① 200		♣♣		■ ＊ 200[100] 英		3-45 600	0 0	600	×		
■ 200	□□□□ □ 2 (100)		□ □ 2 (100) △△	□ 全 □□□□ 2# (100)	不可	♣♣♣♣		■ ＊ 100[20] 除韓		34-45 500	1 300	38 800	○	個別…コミュ英Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（300点）	

△は、当該科目を「履修した者に限る」など、受験資格に何らかの制限があることを示す。その教科が必須であるか、選択であるかは、同教科内の他科目の記号に準じる。

個別比率は、共通テストと個別試験の総合計点に占める個別試験の配点比率（%）。

備考・脚注欄では、共通テストを「共テ」、個別試験を「個別」と略記。また、増・減・変のマークは、2020年入試との比較で、増は入試科目数が増えるもの、減は入試科目数が減るもの、変はその他の変更を示している。
その他、備考・脚注欄では科目選択の制限など、入試に関する補足・注意事項が記載されているので、必ず目を通してほしい。

地歴と公民は別教科扱いとし、教科数もこれに準じているが、地歴、公民が同一試験時間で行われることを考慮して、一つの枠とした。このため、地歴、公民から1（2）科目選択必須の場合、①（②）の記号を用いた。
地歴、公民について、大学が選択の仕方を指定していれば、配点欄にその指定内容を下のように略記した（特に指定がなく、自由に選択できる場合、該当欄は空欄）。
「倫理、政治・経済」は「倫理＆政経」と略記。
なお、地歴では同一名称のA･B出題科目、公民では同一名称を含む出題科目同士の選択はできない（大学入試センター指定）。

英語の［リスニング］項目の記号の意味は次の通り。
「＊」＝リスニングを合否判定に利用。
「空欄」＝リスニングを合否判定に利用しない。
「※」＝「リーディングの得点」と「リーディング・リスニングを合わせた得点（換算後）」のうち高い方の得点を採用。リスニングの配点は、その内訳を［　］内に表示。
リスニングを合否判定に利用するものの、配点の記載がない場合は［－］とした。ただし、各科目の配点を前年（2020年）実績で載せる場合は原則として、リスニングの配点を非表示にした。

「個別試験の有無」欄では、個別試験を課す＝「○」、課さない＝「×」で示し、個別試験を課す場合はその内容を備考・脚注欄に明記した。

地公各2不可……地歴から２科目、公民から２科目の選択は不可
地公各1必須……地歴から１科目、公民から１科目必須の計２科目
地歴Ｂ1以上…地歴Ｂ科目を１科目以上選択する
公民2不可……公民からの２科目選択は不可
地公→1まで……地歴・公民からの選択は１科目まで

数学の「簿記・会計」「情報関係基礎」等の受験制限、英語のリスニングの利用の有無などについて2021年入試科目(6月25日判明分)の注記に指定がなく、2020年にあった場合は、2020年に準じた。

地歴・公民または理科の発展科目から2科目選択する場合、最初に解答する科目が「第1解答科目」、次に解答する科目が「第2解答科目」と指定されている。第1・第2解答科目の注釈については、一覧では記載していないので、各大学の「募集要項」で確認してほしい。

共通テスト「理科」は、1～5の順にチェック！

共通テストの「理科」についても、基礎を付した科目（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎）を「基礎科目」、基礎を付していない科目（物理、化学、生物、地学）を「発展科目」と表記した。共通テストの理科はA～Dの4つの選択パターンのいずれか1つで受験しなければならない。

1 まずはこの欄に注目！

この欄に何らかのマークがあれば、理科の基礎科目（２科目必須）で受験できることになる。ここでは、**基礎２科目を1科目（1セット）**とみなしている。

2 次にこのマークに注目！

■は基礎科目（２科目）が必須科目であることを示す。

①は「発展科目」と合わせた中から1科目選択することを示す。ただし、基礎科目選択の場合は２科目となる。

②は「発展科目」と合わせた中から、２科目選択することを示す。基礎科目を選択に含める場合は「基礎２科目＋発展１科目」となる。基礎科目を選択しない場合は、「発展科目」から２科目選択となる。

□は、理科の□の付いた科目と、他の教科の□の付いた科目を合わせた中から、下に2とあれば２科目選択、3とあれば３科目選択することを示す。

#は、教科をまたいで理科の基礎科目（２科目必須）を選択した場合は、他の科目を選択した場合よりも１科目増となることを示す。
例えば、地歴・公民と理科（基礎科目を含む）の中から３科目を選択する場合、備考または脚注欄では「地公・理から計３（＃4）科目選択」と記載した。これは、理科の基礎科目を選択に含めた場合、合計では４科目になることを意味する。

共通テストの科目・配点

国語	地歴	公民	数学	理科					外国語		教科-科目数	満点
国語 ※除外	世界史A 日本史A 地理A 世界史B 日本史B 地理B	現代社会 倫理 政治・経済 倫理・政治・経済	数学ⅠⅠ・A 数学ⅡⅡ・B 情報関係基礎	基礎科目 全は4科目全てが選択対象	発展科目 物理 化学 生物 地学	同一名称組合せ	選択パターン A 基礎2科目 B 発展1科目 C 基礎2+発展1 D 発展2科目		外国語 リスニング	科目指定		
□1 古 漢 (100)			□ 1 (100)	■ 必須 化生 100			♣		■ ＊ 100[20]		3-4	300
□1 (100)			①①①① 100	① 全 ①①①① 100			♣♣		□1 (100) 英		3-34	300
□1 古 漢 (100)			□ □ 1 (100)	② 全 ②②②② 200		可	♣♣		□1 (100) 仏 独 英		2-34	300
			■ ■ 200	① 物化生 ①①① 200			♣♣		■ ＊ 200[100] 英		3-45	600
■ 200	□□□□ □ 2 (100)		□ □△△ 2 (100)	□ 2# 全 □□□□ (100)		不可	♣♣♣♣		■ ＊ 100[20] 除 韓		34-45	500

共通テストの全体の教科・科目数は以下のように表記した（理科の基礎科目は２科目としてカウント）。
3 － 4…… 3教科4科目
3－34…… 3教科で、3科目または4科目
35－56 … 3～5教科で、5科目または6科目
56－78 … 5教科または6教科で、7科目または8科目

3 科目指定欄で基礎科目の内容をチェック！

基礎科目の内容を以下のように示した。

「全」＝物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎から2科目選択。

「物・化・生」＝物理基礎・化学基礎・生物基礎から2科目選択。

「物必・化・生」＝物理基礎必須、化学基礎・生物基礎から1科目選択。

4 「同一名称組合せ」の可否をチェック！

基礎科目と発展科目を選択する場合（Cパターン）、「物理基礎と物理」「化学基礎と化学」「生物基礎と生物」「地学基礎と地学」のように、同一名称を含む科目の組合せが選択可能かどうかを、「可」「不可」で示した（大学公表の場合に限る）。

5 「選択パターン」欄で、理科の選択パターンを再確認する！

次のAからDの中で、大学が提示しているパターンに♣マークを付けている。

A　基礎2科目……理科の基礎科目から２科目選択。

B　発展1科目……理科の発展科目から１科目選択。

C　基礎2＋発展1……理科の基礎科目から２科目選択、かつ発展科目から１科目選択。

D　発展2科目……理科の発展科目から２科目選択。

編集部注　2021年入試科目・配点は、2020年6月25日現在の判明分を掲載しています。ただし、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、入試科目・配点が未定、概要、予定の大学が多く含まれ、今後も入試の実施内容において多くの変更が行われる可能性があります。
出願に際しては、各大学の「募集要項」などで内容を必ず確認してください。
なお、共通テストの「教科数－科目数」は、志望校の受験に必要な教科数・科目数を表示したもので、これによって共通テストの受験科目を制限するものではありません（指定以上の科目を受験した場合は、原則として第1解答科目や高得点の科目などが利用されます）。